

物理学基礎 II

講義 6 の板書ノート

中心力場と保存力場

谷村 省吾

注意

等号(イコール)を堂々と書け。

$$A = B$$

最近こういう等号を書く人を見かける↓

$$A = B$$

$$A = B$$

$$A = B$$

とんどんイコールが不明瞭になり、こいつ、

しまいには マイナスとまじりたりしていく。

自分でも絶対に見失わないように、くまりと記号は書け。

今回はと次回は

電場に関する位置エネルギー

= ある基準点から現在地まで

電場の力に逆らって点電荷を運ぶのに要する仕事。

= ~~点電荷~~ その位置にある点電荷にたくわえられている

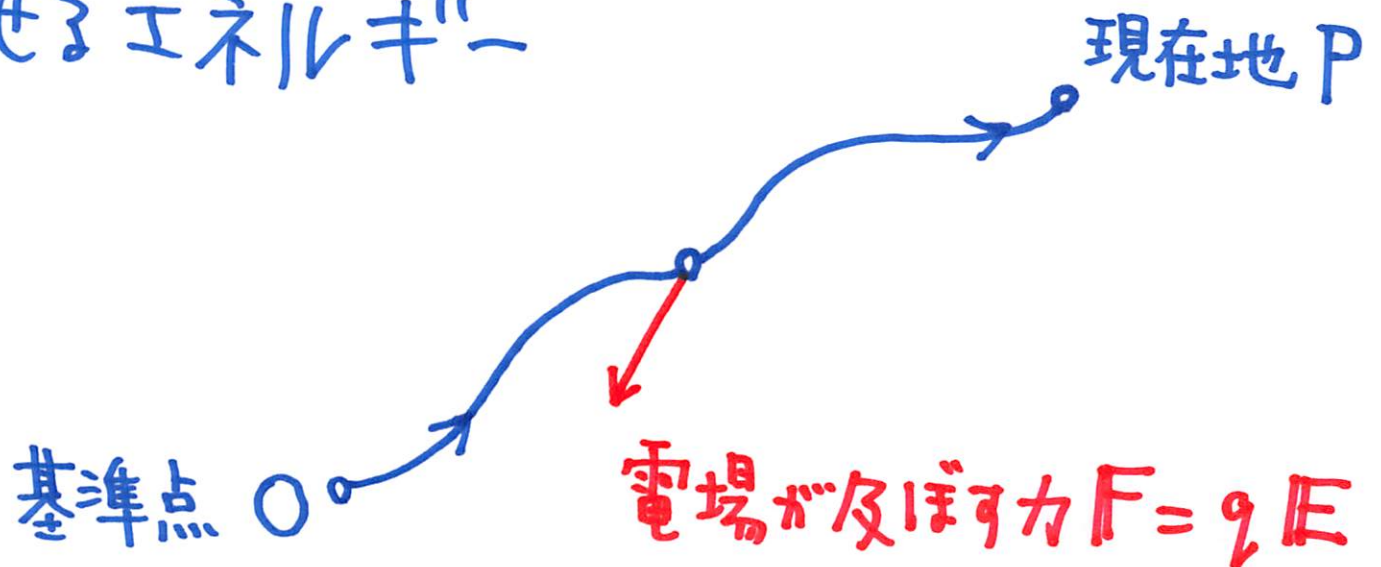
とみなせるエネルギー

について学ぶ。

それを計算するために

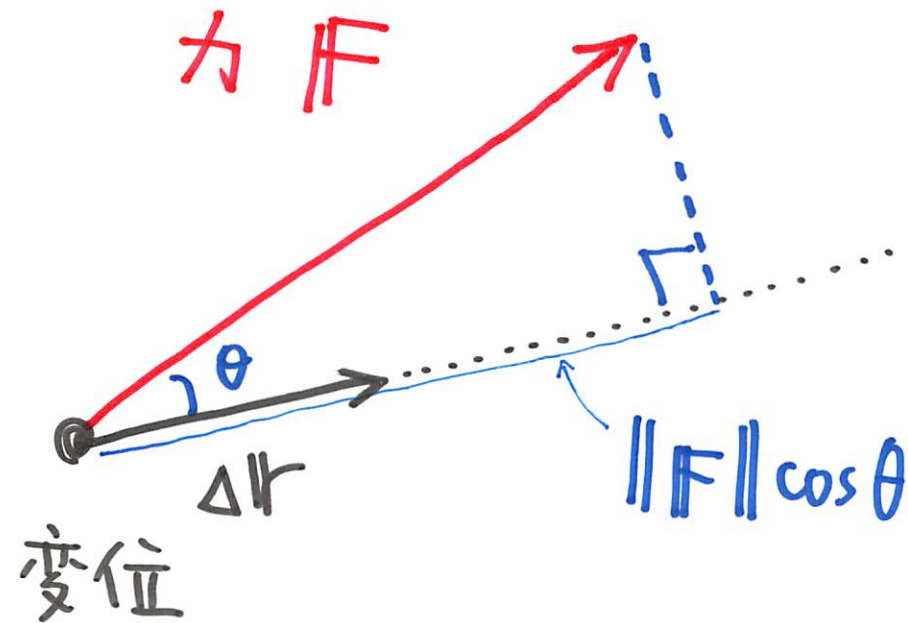
線積分が必要。

基準点 O



力 F を受けている質点が一微小変位 Δr だけ動くときにされる仕事

$$\begin{aligned}\Delta W &= F \cdot \Delta r \\ &= F_x \Delta x + F_y \Delta y + F_z \Delta z \\ &= \|F\| \cdot \|\Delta r\| \cdot \cos \theta\end{aligned}$$



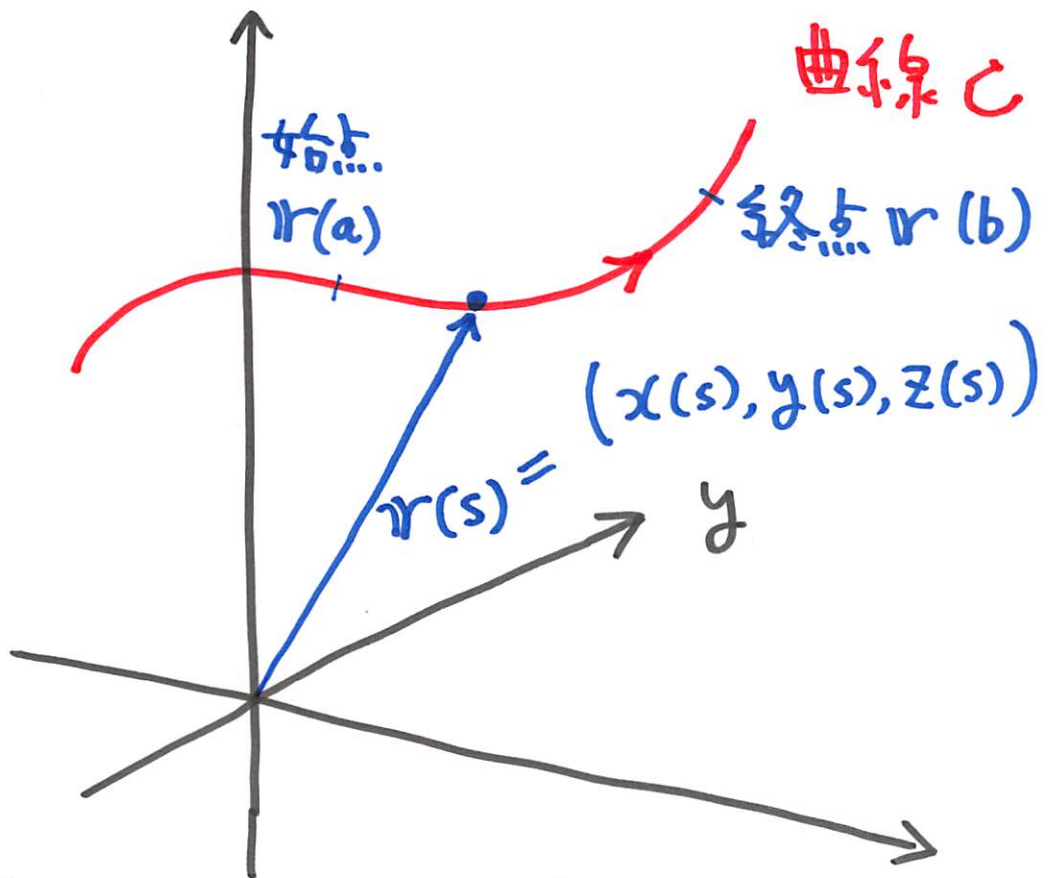
パラメータ付けられた曲線

パラメータ空間



変数 s は
 $a \leq s \leq b$
の範囲で動く。

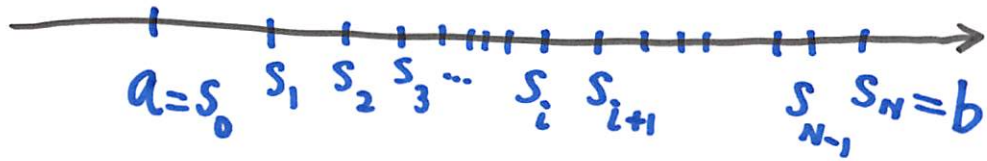
3次元空間



$x(s), y(s), z(s)$ は s の連続関数。
変数 s の値が動くと、ベクトル $r(s)$ が指す点も動く。
∴ 曲線を描く。

力のベクトル場 $A(r)$ の中で質点が曲線 C に沿って移動するときに行われる仕事の総量 W を求める。

パラメータ空間



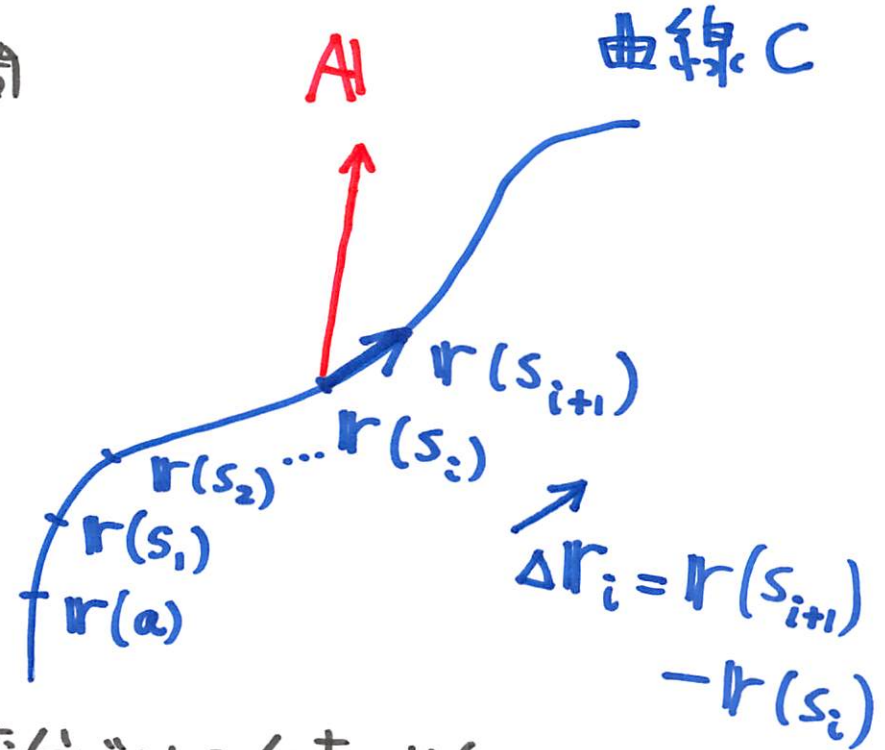
$a \leq s \leq b$ の刻み幅を無限に小さくしながら $N \rightarrow \infty$ にする。

仕事の総量

$$W = \lim_{N \rightarrow \infty} \sum_{i=0}^{N-1} A(r_i) \cdot \Delta r_i$$

$$=: \int_C A(r) \cdot dr = \int_a^b \left\{ A_x(r(s)) \frac{dx}{ds} + A_y(r(s)) \frac{dy}{ds} + A_z(r(s)) \frac{dz}{ds} \right\} ds$$

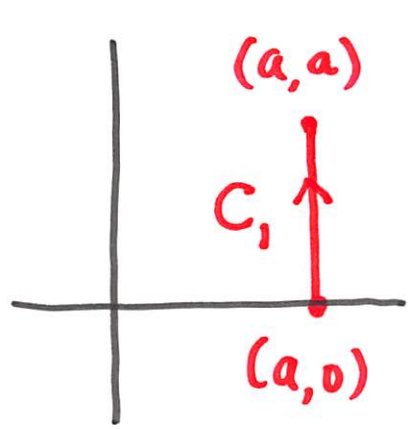
3次元空間



微小変位で行われる仕事 $\Delta W = A \cdot \Delta r_i$

C に沿っての A の総積分 (line integral)

例題 平面上のベクトル場 $A = (A_x, A_y) = (-(x^2+y^2)y, (x^2+y^2)x)$



$\int_{C_1} A \cdot dr$ を求めよ。

C_1 上の動点は $r(s) = (a, s)$ とし $s=0$ から a まで動く。

($r(s) = (a, as)$ とし $s=0$ から $s=1$ まで動く)

$$x(s) = a \quad \text{なので} \quad \frac{dx}{ds} = 0, \quad \frac{dy}{ds} = 1$$

$$y(s) = s$$

$$A_x = -(x^2+y^2)y = -(a^2+s^2)s$$

$$A_y = +(x^2+y^2)x = (a^2+s^2)a$$

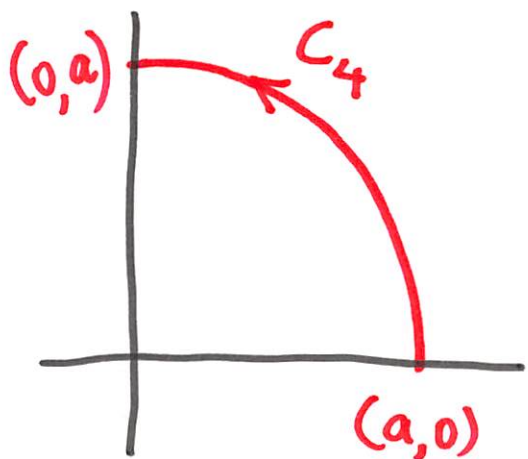
$$\therefore \int_{C_1} A \cdot dr = \int_0^a \left\{ A_x \frac{dx}{ds} + A_y \frac{dy}{ds} \right\} ds = \int_0^a \left\{ -(a^2+s^2)s \cdot 0 + (a^2+s^2)a \cdot 1 \right\} ds$$

$$= \int_0^a \{ a^3 + as^2 \} ds$$

$$= \left[a^3s + \frac{1}{3}as^3 \right]_{s=0}^{s=a}$$

$$= \cancel{[a^4 + \frac{1}{3}a^4 - 0]} = \frac{4}{3}a^4 \quad \blacksquare$$

同じく $A = (A_x, A_y) = (-(x^2+y^2)y, (x^2+y^2)x) \quad \text{---} \text{---} \text{---}$



$\int_{C_4} A \cdot dr$ を求めよう.

C_4 上の動点 $r(s) = (a \cos s, a \sin s)$ とし $s=0$ から $s=\frac{\pi}{2}$ まで動く.

$x(s) = a \cos s$ 2の2' $\frac{dx}{ds} = -a \sin s, \frac{dy}{ds} = a \cos s$
 $y(s) = a \sin s$

$A_x = -(x^2+y^2)y = -a^2 \cdot a \sin s$

$A_y = (x^2+y^2)x = a^2 \cdot a \cos s$

$\therefore \int_{C_4} A \cdot dr = \int_0^{\frac{\pi}{2}} \left\{ A_x \frac{dx}{ds} + A_y \frac{dy}{ds} \right\} ds = \int_0^{\frac{\pi}{2}} \left\{ -a^3 \sin s \cdot (-a \sin s) + a^3 \cos s \cdot a \cos s \right\} ds$
 $= \int_0^{\frac{\pi}{2}} a^4 (\sin^2 s + \cos^2 s) ds = a^4 \int_0^{\frac{\pi}{2}} 1 ds = a^4 \times \frac{\pi}{2} \quad \blacksquare$

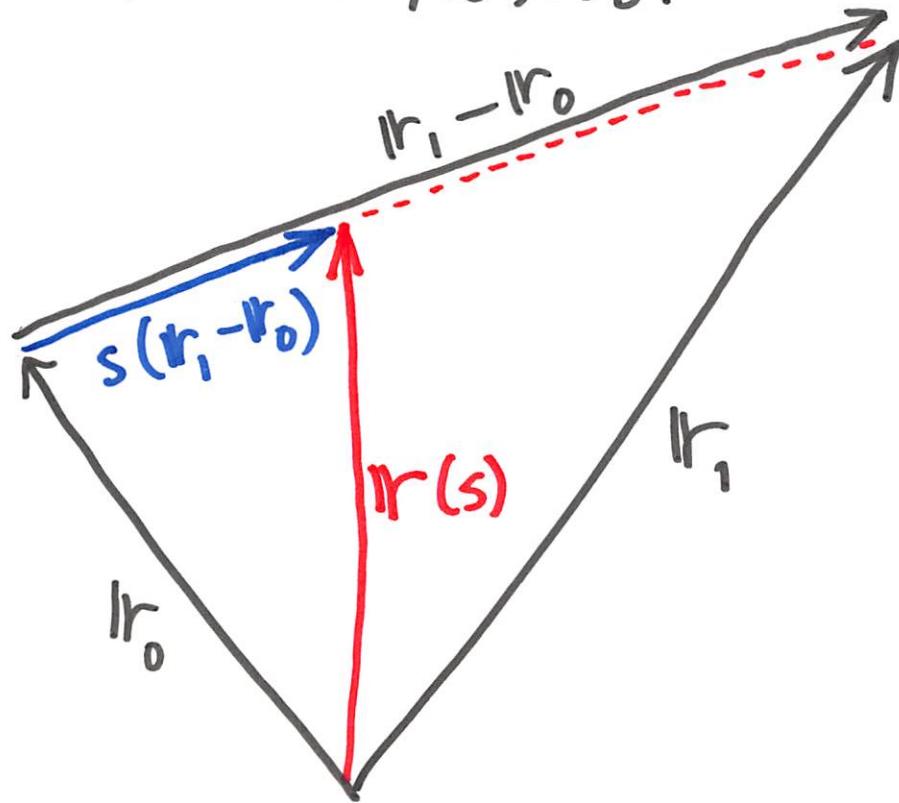
ヒント

r_0 を始点, r_1 を終点とする線分上の動点は

$$r(s) = r_0 + s(r_1 - r_0)$$

$$= (1-s)r_0 + s r_1$$

といふ $s=0$ から $s=1$ まで s と与えられる。



ベクトル $\mathbf{r} = (x, y, z)$ の長さを $r = \|\mathbf{r}\| = \sqrt{x^2 + y^2 + z^2}$ とする。

$$\text{便利な公式 } \mathbf{r} \cdot d\mathbf{r} = r dr$$

$$\mathbf{r} \cdot \mathbf{r} = x^2 + y^2 + z^2 = r^2$$

関数 $x(s), y(s), z(s)$ によつて x, y, z の値が変化するときは、

$$\frac{d}{ds} (\mathbf{r} \cdot \mathbf{r}) = 2x \frac{dx}{ds} + 2y \frac{dy}{ds} + 2z \frac{dz}{ds}$$

$$\parallel \quad = 2(x, y, z) \cdot \left(\frac{dx}{ds}, \frac{dy}{ds}, \frac{dz}{ds} \right)$$

$$= 2\mathbf{r} \cdot \frac{d\mathbf{r}}{ds}$$

$$\frac{d}{ds} (r^2) = 2r \frac{dr}{ds} \quad \text{よつて } \mathbf{r} \cdot \frac{d\mathbf{r}}{ds} = r \frac{dr}{ds}$$

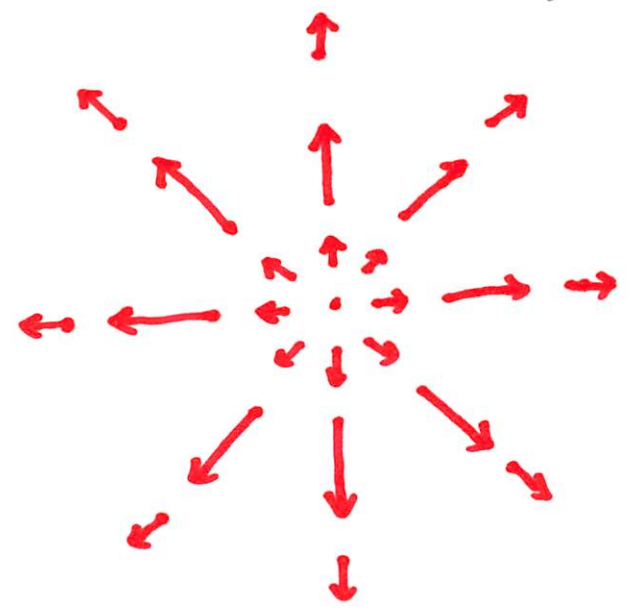
$$x dx + y dy + z dz = \mathbf{r} \cdot d\mathbf{r} = r dr$$

定義 中心力場 central force field

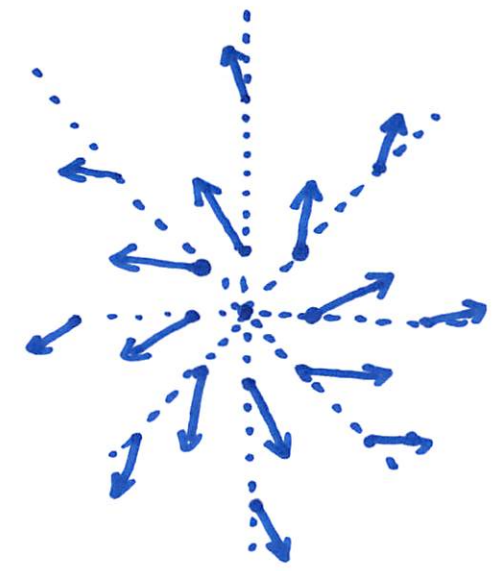
$$F(r) = f(r) \frac{r}{r}$$

という関数形のベクトル場 $F(r)$ を中心力場という。

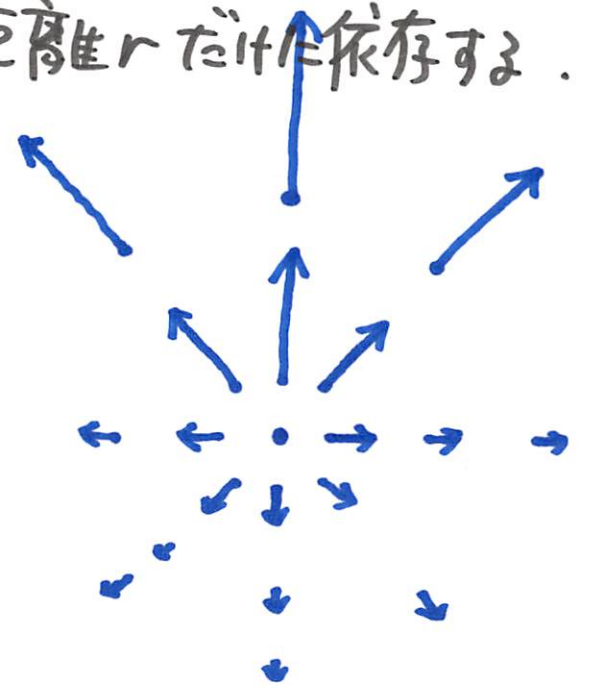
向きは動径方向 $\frac{r}{r}$ であり、大きさは原点からの距離 r だけに依存する。



これは中心力場



これは中心力場でない。
向きが r 方向からずれている。

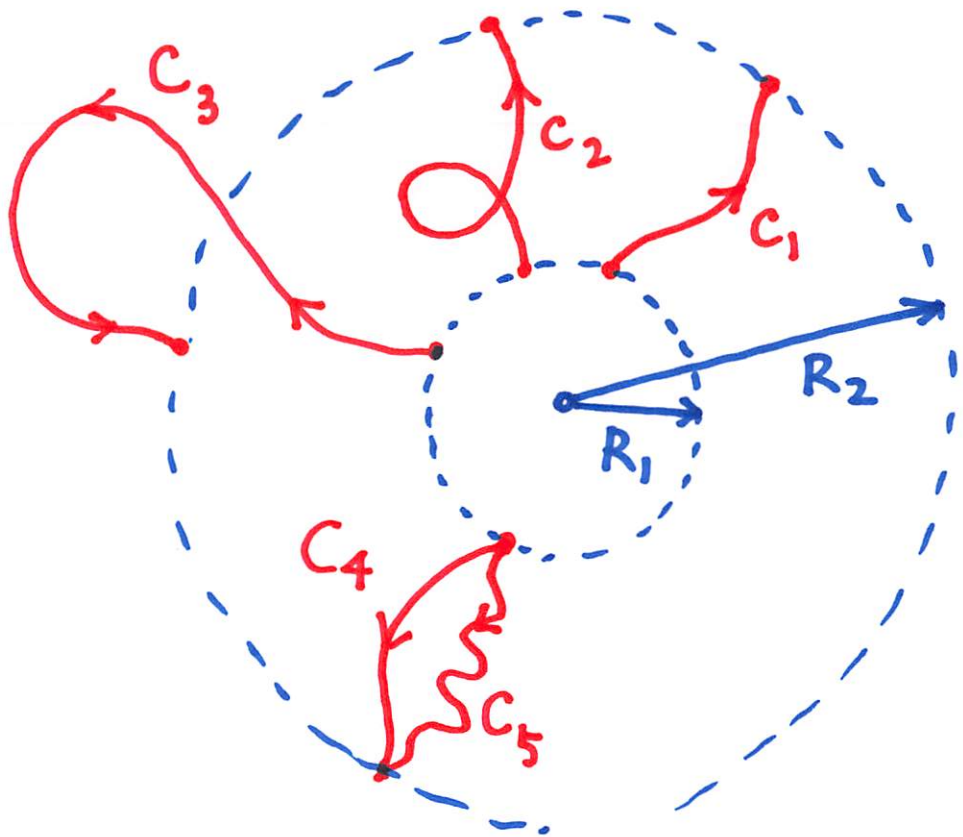


これも中心力場である。
原点からの向きが等しい
場所のベクトル場の
大きさが異なっている。

定理

中心力場 $F(r)$ の線積分の値は、曲線 C の始点と終点の原点からの距離だけで決まる。

$$\int_C F \cdot dr = \int_C f(r) \frac{1}{r} r \cdot dr = \int_{R_1}^{R_2} f(r) \frac{1}{r} r dr = \int_{R_1}^{R_2} f(r) dr$$



曲線 C_1, C_2, C_3, C_4, C_5

どの道筋に沿って線積分しても、

$$\int_{C_1} F \cdot dr = \int_{C_2} F \cdot dr = \dots = \int_{C_5} F \cdot dr$$

定義

始点と終点が一致する曲線をループ (loop) または閉曲線 (closed curve) という。また、ループ L に沿ってこの線積分を $\oint_L \mathbf{F} \cdot d\mathbf{r}$ と書く。

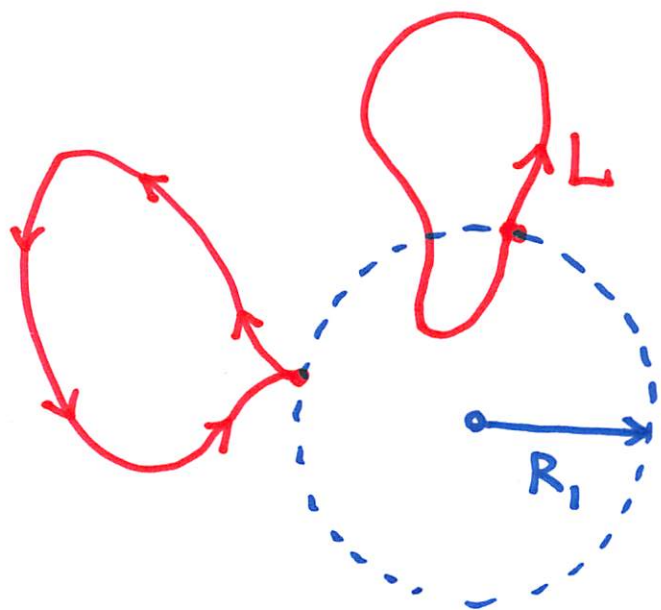
定理

中心力場 $\mathbf{F}(\mathbf{r})$ をループに沿って線積分した値はゼロになる。

$$\oint_L \mathbf{F} \cdot d\mathbf{r} = 0$$

なぜならループの始点と終点は一致しているから $R_1 = R_2$

$$\int_L \mathbf{F} \cdot d\mathbf{r} = \int_{R_1}^{R_2} f(r) dr = \int_{R_1}^{R_1} f(r) dr = 0$$

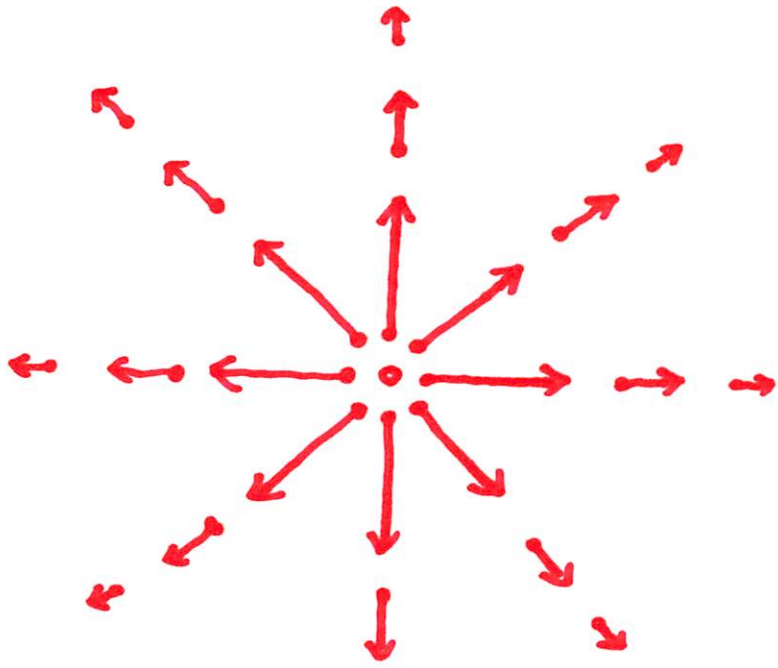


事実 点電荷 Q が作る電場 $E(r) = \frac{Q}{4\pi\epsilon_0 r^2} \frac{r}{r}$ は中心力場である。

その線積分は

$$\int_C E \cdot dr = \int_{R_1}^{R_2} \frac{Q}{4\pi\epsilon_0 r^2} dr = \left[-\frac{Q}{4\pi\epsilon_0 r} \right]_{r=R_1}^{r=R_2} = \frac{Q}{4\pi\epsilon_0} \left(\frac{1}{R_1} - \frac{1}{R_2} \right)$$

となり、始点と終点を結ぶ曲線 C の選び方に依存しない。



$E(r)$ は中心力場

